

新環境下における日本のものづくり企業の研究

◆キーワード

生産システム グローバリゼーション 環境

◆産業界の相談に対応できる分野

経営管理 企業経営 生産システム

人文学部 社会科学科 准教授

牧 良明

TEL 029-228-8170

e-mail ymaki@mx.ibaraki.ac.jp

一言
アピール

本研究は、グローバリゼーションや環境問題など新たな課題に立ち向かうものづくり企業の実態を解明し、今後の方向性を導き出そうとしています。

研究概要

今、日本のものづくり企業は大きな転換点を迎えています。かつて、「ものづくり大国 日本」という評価を謳歌してきた日本でしたが、その評価はいま大きく揺らいでいます。いったいものづくりの分野で日本企業に何が起こったのか、日本企業のものづくりの強みはどこにあるのか、どのようにすれば、日本企業のものづくりは世界と伍していけるのか、そうしたことを日々考えています。

とりわけ、私の研究対象は自動車産業のものづくりです。自動車産業は、「ものづくり大国 日本」の象徴的産業であり、また、現在においてもものづくりの世界で競争優位を比較的発揮している産業でもあります。中でも、最近の関心は、茨城県の自動車関連企業です。茨城県には、これまで自動車生産工場はありませんでした。しかし、自動車部品生産をみると、日立製作所における自動車部品事業は戦前からの長い歴史を有しています。また、日立と取引のある地元中小企業のなかには、自動車部品事業においてきわめて高度な技術能力をもち、また、積極的な海外展開を見せている企業もあります。このような企業を訪問し、研究しながら、日本のものづくり企業の今後について考えています。

もう一つの関心事は、リサイクル企業をはじめとする、環境関連企業です。これまで、日本に限らずものづくりは、「いかに市場適合的な製品を効率的に作るのか」が課題でした。しかしながら、CO₂やPM2.5の問題をはじめ、様々な点から、地球環境が人類の生存を脅かすまでに悪化しています。ものづくり企業の今後を考えるうえでは、こうした環境問題に、企業はどのように立ち向かっていくのかを考えることも同時に必要です。

県内をはじめ、リサイクル関連企業や「エコタウン」と呼ばれる地域での取り組みの実態を調査研究し、ものづくりと廃棄物処理がうまく循環できる企業システム、生産システムの構築を考えています。

何に
使える?

直接「何に使える」という研究ではありませんが、企業経営の直面する課題を「ものづくり」の観点から一緒に考えたいと思っています。